

## 2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	県民生活部 中山間・地域振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム		
施策名	【重点】生き活き拠点（小さな拠点）の形成促進		

### 2 生き活き指標の進捗(達成)状況

指標名	内容	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	9	12	15	18
現況値	2市町村(2015年度末)	実績値	11	14	16	17
目標値	18市町村以上	達成率	122.2%	116.7%	106.7%	94.4%
備考		達成度	5	4	4	3

### 3 事務事業評価

県民生活部 中山間・ 地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	生き活き拠点強化支援事業	<p><b>実施目的</b> 一定のエリア内の拠点的地域において、行政窓口や郵便局、診療所、商店など日常生活に必要なサービス機能の維持・確保を図る「生き活き拠点」（小さな拠点）の形成に向けた市町村の取組を支援する。</p> <p><b>成案・課題</b> 事業実施に当たり、市町村に対して制度の趣旨やメリット等を周知してきたが、県と市町村で生き活き拠点に対するイメージや考え方について、意識統一が図られなかったケースもあり、昨年度末で17市町村にとどまった。今後とも制度の趣旨に沿った拠点形成が図られるように市町村を支援する。</p>	3
平均			3.0

### 4 施策達成レベル

3.0	生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

### 5 施策推進による主な成果

小さな拠点の取組については、新たにモデル地区に選定した1カ所において、公的施設の一部を改修し、地域住民組織の拠点施設として活用するための「拠点形成計画」を策定した。また、2019年度に「拠点形成計画」を策定した3箇所所のモデル地区においては、計画に基づく拠点施設の整備を行い、買い物難民支援となるフリーマーケット実施等、地域住民の主体的な活動の事例が出ており、集落機能の維持・確保に向けた施策の成果が現れてきているところである。

### 6 今後の施策推進に向けての課題

拠点がカバーする地域の全体像や将来のビジョンを描き切れていない例も見受けられる。制度の趣旨に沿った計画策定のためには、地域の方向性を自ら決定することの重要性を認識し、市町村が住民と対話を重ねながら策定することが重要であり、地域課題解決のための話し合いや具体的取組の主体となる地域運営組織とそれを支える市町村の取組への支援を行っていく必要がある。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	県民生活部 中山間・地域振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム		
施策名	【重点】ワカモノ・ヨソモノによる中山間地域等の活力創出		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○地域おこし協力隊の人数	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	114	127	140	150
現況値	108人(2016年4月1日)	実績値	151	134	136	150
目標値	150人	達成率	132.5%	105.5%	97.1%	100%
備考		達成度	5	4	3	4

3 事務事業評価

県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業	<p><b>実施目的</b> おかやま元気！集落における各種課題について、地域と協働しながら現状把握、課題分析を行い、課題解決や地域活性化に向けて取り組む大学の研究活動を支援し、若者の発想を生かした企画立案を求めるとともに、若者の中山間地域等への関心や愛着心を醸成する。</p> <p><b>成果・課題</b> 県内の3大学4研究室及び首都圏の2大学2研究室の合計5大学6研究室が、おかやま元気！集落の抱える地域課題の解決等に向けて、地域交流などを通じて研究活動を行った。地域課題解決に向けた具体的な取組につながっている一方で、本事業に新たにに取り組む研究室の掘り起こしが課題である。</p>	3

県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	おかやまの離島で学ぶ！小中学生島体験学習事業	<p><b>実施目的</b> 県内の小中学生を対象に、島に滞在しながら、島の自然や文化、産業などを体験・学習する機会を提供することにより、離島への関心を高め、愛着心を醸成するとともに、将来、島の振興を担う人材としての芽を育てる。</p> <p><b>成果・課題</b> 市町村教育委員会等の協力のもと、目標を大きく上回る参加が得られ、多くの小中学生に島の自然・文化、産業などの魅力を体験してもらったことができた。2018年度から島独自の伝統や産業等について学ぶ機会を活動内容に組み込むことを必須としており、離島への関心や愛着心のさらなる醸成を図ることとする。</p>	4

県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	地域おこし協力隊活用・定着促進事業	<p><b>実施目的</b> 地域の特色ある資源を活用した特産品開発や地域の魅力発信等に取り組む地域おこし協力隊の活動を支援する。</p> <p><b>成果・課題</b> 市町村での地域おこし協力隊の導入が進み、特産品開発や空き家の利活用など、様々な活動が展開されている。全国の自治体でも活用が広がる中で、魅力ある募集内容の作成や、地域とのマッチングといった新たな課題も生まれており、研修会や交流会を通して市町村、協力隊双方に支援を行う必要がある。</p>	4

平均	3.7
----	-----

#### 4 施策達成レベル

3.9	生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

#### 5 施策推進による主な成果

地方での若者の数が大きく減少する中、実際に地域に入り、体験学習や活動を行うことを通じて、小・中学生や大学生といった若い世代の中山間地域等に対する関心や愛着心を醸成することができたほか、地域課題解決に向けた具体的な取組にもつながっている。

また、若者の感性を生かした特色ある地域おこし協力隊の取組が広がっており、任期後も活動地に根付き、人が人を呼ぶ好循環が生まれている地域もある。

#### 6 今後の施策推進に向けての課題

体験学習を通じて発見した地域の魅力の発信や、地域課題解決の取組事例の水平展開など、施策で得た成果の活用に努めるとともに、引き続き、関係機関と連携して幅広い参加者の募集に努める。

地域おこし協力隊については、人材確保、また、市町村や隊員の横の連携強化等の支援を行っていく必要がある。

## 2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 県民生活部 中山間・地域振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム
施策名	【重点】集落機能の維持・強化

### 2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○「おかやま元気！集落」の数	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	11	14	17	20
現況値	53地域 (2015年度末)	実績値	5	7	12	20
目標値	73地域	達成率	45.5%	50%	70.6%	100%
備考	現況値からの当該年度末における増加目標値に対する増加累計実績	達成度	1	2	2	4

### 3 事務事業評価

県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	地域と暮らしの維持応援事業(集落再編支援事業)	<p><b>実施目的</b> 人口減少、高齢化が進む中で、すべての集落を今までどおり維持することは難しくなっている。将来に向けて地域住民の「安心な」暮らしを確保していくためには、地域住民の希望に応じて、集住や集落移転という選択肢を用意することも必要であり、こうした取組の検討等を行う市町村を支援する。</p> <p><b>成果・課題</b> 集住や集落移転に関する補助実績はないが、人口減少や高齢化の進行や自然災害の頻発・激甚化などの状況を踏まえ、地域住民の安全・安心な暮らしを確保するため、これからの集落のあり方について、幅広く検討する地域や市町村の主体的な取組を支援する必要がある。</p>	4

県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	おかやま元気！集落活動促進支援事業	<p><b>実施目的</b> 単独では集落機能の維持が困難な小規模高齢化集落等が含まれる地域において、小学校区、大字等の広域的な地域運営により、集落機能の維持・強化に取り組む地域を「おかやま元気！集落」として登録し、市町村と連携しながら、その自主的な取組を支援することで中山間地域の活力創出を図る。</p> <p><b>成果・課題</b> おかやま元気！集落への登録を通して、地域住民が集落の課題や将来像を共有し、自主的な活動に向けた意識向上につながった。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、従来の集落活動が制限される場面が多くあり、先進事例の紹介などを通して、このような状況下でも集落機能の維持・確保が図れるよう支援を行う必要がある。</p>	4

平均	4.0
----	-----

### 4 施策達成レベル

4.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

### 5 施策推進による主な成果

市町村において、地域運営組織設立・充実の気運が高まってきている中、2020年度には「おかやま元気！集落」登録数が8地区増加した。地域活動への助言や情報提供、初動期を中心とした活動経費の支援など、本施策による支援が、集落機能の維持・強化に向けた地域の取組に結びついている。  
また、集落のあり方を考えるシンポジウム開催により、将来の集落のあり方について考える機会を提供できた。

## 6 今後の施策推進に向けての課題

市町村との連携を密にし、細やかな情報共有を図ることで、支援を必要としている潜在地域の掘り起こしを行う。また、コロナ禍による活動制限や、担い手・後継者の不足による活動停滞が見られる地域もあり、先進事例の紹介や専門家派遣等、それぞれの地域の実情に応じた支援を行っていく必要がある。また、将来の集落のあり方については、考える機会を引き続き提供し、各地域で議論を進めてもらう。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	県民生活部 中山間・地域振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム		
施策名	【重点】移住・定住の促進		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○本県への移住者数	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	2,000	4,000	6,000	8,000
現況値	1,796人/年(2014,2015年度の平均値)	実績値	3,300	6,380	9,215	12,000
目標値	8,000人(4年間累計)	達成率	165%	159.5%	153.6%	150%
備考		達成度	5	5	5	5

3 事務事業評価

県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	岡山移住・定住促進パワーアップ事業	<p><b>実施目的</b> 新型コロナウイルス感染症を契機とした新しい生活様式や企業の働き方の見直しが進む中、東京一極集中から地方への流れが広まっており、市町村や各種団体等と連携し、首都圏を中心に、プロモーションや情報発信の強化、受入環境の充実を図る。</p> <p><b>成果・課題</b> コロナ禍による対面相談やイベントの中止などによる影響はあったが、オンライン対応の整備等を進めた。今後は新しい生活様式や働き方による移住・定住への変化をタイムリーに捉えた情報発信などが必要である。</p>	1

県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	移住・定住促進応援事業	<p><b>実施目的</b> 移住を検討している方にとって、移住後の不安の解消やサポートが重要な課題であることから、市町村と連携し、地域と一体となった移住者受入体制の整備、拡大を図ることで、本県への一層の移住を促進する。</p> <p><b>成果・課題</b> 空き家を活用する移住者が増えたため、事業件数の増加につながった。一方で、コロナ禍による新しい生活様式に合わせた通信環境の整備など、新たな課題もわかり、要領等の改正を行った。</p>	5

県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	「いいね!地方の暮らしフェア」開催事業	<p><b>実施目的</b> 首都圏在住の若い世代に向けて地方の暮らしの魅力を発信し、地方への移住を促進する。</p> <p><b>成果・課題</b> コロナ禍により、イベント等が中止となった。今後、他県との協議を重ね、オンラインの活用など新たなイベント開催や代替イベントの開催など検討する必要がある。</p>	1

県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	岡山移住推進員（ハレクニぐらしコンシェルジュ）の配置	実施目的	移住ポータルサイト「おかやま晴れの国ぐらし」やフェイスブックなどによる本県の魅力発信や、相談会等の移住イベントでの相談対応を行う専任の推進員を配置し、効果的な事業推進を図る。	
成果・課題		コロナ禍による対面相談、相談会の中止により、相談件数が大きく減少したが、オンライン相談やオンラインセミナーへ積極的に参加した。今後は、地域への情報提供、情報収集を積極的に行うため、中山間地域協働支援センターとの連携に努める。		

県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	吉備高原都市活性化パートナーシップ事業	実施目的	吉備高原都市の住区分譲の推進や都市の魅力づくりを通じて、吉備高原都市への移住・定住を促進する。	
成果・課題		都市の魅力づくりを協働で進めるための組織「都市創造推進チーム」を中心に、戦略的な情報発信に取り組んだほか、きびプラザに新たなサービスを導入する事業者を支援するなど、都市の魅力向上を図った。また、パートナーシップ契約を締結したハウスメーカー等を定期的に訪問するなど事業効果が高まるよう取り組んだが、住区に分譲数は目標に至らなかった。		

平均	2.6
----	-----

#### 4 施策達成レベル

4.5	生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

#### 5 施策推進による主な成果

新型コロナウイルス感染症の影響により、セミナーや移住相談会等の開催が中止となったが、オンライン等により開催するなど、切れ目のない情報発信に努めた。

#### 6 今後の施策推進に向けての課題

今後はデジタルマーケティングの手法による情報発信を強化するとともに、新しい生活様式や働き方の見直しに等によるテレワークやワーケーションの実施など、ポストコロナの「新たな日常」を見据えて、市町村や経済団体との連携を強化し、受入環境の整備に取り組む。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 土木部 道路建設課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム
施策名	【重点】地域の生活を支える道づくり

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○地域の拠点性を高めることにつながる交通難所改善箇所数	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	40	90	140	200
現況値	—	実績値	47	94	141	204
目標値	200箇所(4年間累計)	達成率	117.5%	104.4%	100.7%	102%
備考		達成度	4	4	4	4

3 事務事業評価

土木部 道路建設課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	おかやまスタンダード道路事業	<p><b>実施目的</b> 中山間地域等の生活の中心となる拠点的地域の機能強化や「おかやま元気!集落」をはじめとした集落機能の維持・強化に取り組む地域を支援するため、「おかやまスタンダード」による、効果的・効率的な道路整備を推進し、すれ違いが困難な箇所や見通しの悪い交通難所を計画的に改善する。</p> <p><b>成果・課題</b> すれ違いが困難な箇所や見通しの悪い交通難所を計画的に改善した。引き続き、重点戦略での事業実施にあたって、効果的・効率的な道路整備を推進し、中山間地域等における生活の中心となる拠点的地域の機能強化を図る必要がある。</p>	4

土木部 道路建設課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	中山間地域等交通難所緊急対策事業	<p><b>実施目的</b> 中山間地域等の生活の中心となる拠点的地域の機能強化や「おかやま元気!集落」をはじめとした集落機能の維持・強化に取り組む地域を支援するため、「おかやまスタンダード」による、効果的・効率的な道路整備を推進し、すれ違いが困難な箇所や見通しの悪い交通難所を計画的に改善する。</p> <p><b>成果・課題</b> すれ違いが困難な箇所や見通しの悪い交通難所を計画的に改善した。引き続き、重点戦略での事業実施にあたって、効果的・効率的な道路整備を推進し、中山間地域等における生活の中心となる拠点的地域の機能強化を図る必要がある。</p>	4

平均	4.0
----	-----

4 施策達成レベル

4.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

すれ違いが困難な箇所や見通しの悪い交通難所を4年間で204箇所改善し、中山間地域等における生活の中心となる拠点的地域の機能強化を図った。
--



## 6 今後の施策推進に向けての課題

引き続き、すれ違いが困難な箇所や見通しの悪い交通難所を効果的・効率的な道路整備を推進し、中山間地域等における生活の中心となる拠点的地域の機能強化を図る必要がある。

## 2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 県民生活部 中山間・地域振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム
施策名	【推進】地域づくりへの民間参加等の促進

### 2 生き生き指標の進捗(達成)状況

### 3 事務事業評価

県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	中山間地域協働支援センター事業	<b>実施目的</b> おかやま元気！集落等の取組支援と、地域づくりへのNPOや企業、大学など多様な主体の参加促進を図るため、「岡山県中山間地域協働支援センター」を設置・運営する。	<b>成果・課題</b> 大学生等の登録ボランティアによる地域イベント等への参画を通じ、関係人口の拡大が図られたが、新型コロナウイルス感染症の影響による地域イベント等の自粛や、派遣地域への交通手段等の問題から、派遣件数は目標を下回った。地域イベント等以外へのボランティアの参画の模索や、自ら移動可能な団体等の参画を重点的に求めるなどの工夫を加えながら、引き続き集落の取組を支援していく。	2
県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	若者×空き家等活用×事業者支援事業	<b>実施目的</b> 地元の若者の働く場の確保や都市部の若者の還流のため、地域活性化を目指す意欲ある市町村と連携し、空き家等を活用した事業所等の新規開設を促進する。	<b>成果・課題</b> コロナ禍で需要が高まった事もあるが、情報発信の成果が現れた。	4
平均				3.0

### 4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

### 5 施策推進による主な成果

中山間協働支援センターへの委託事業により、登録ボランティアの地域活動への参画や、特産品販売等の地域のニーズに応じた企業とのマッチングなどを行い、地域と多様な形で関わる交流人口の拡大や地域の活性化を図ることができた。また、空き家等を活用した事業所の新規開設については、コロナ禍でのニーズを的確に把握し、2件の誘致につながり、地域の活力創出につながっている。

## 6 今後の施策推進に向けての課題

登録ボランティアを派遣できる地域イベント等が新型コロナウイルス感染症の影響により自粛される中、都市住民が地域づくりへ参加できる機会の幅広い模索など、地域に関わる関係人口の拡大に向けた取組を一層進める必要がある。

また、空き家等を活用した事業所の新規開設については、コロナ禍における希望者のニーズが変化する中、ニーズにあった空き家の掘り起こしやマッチング方法など、今後検討していく必要がある。

## 2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	県民生活部 中山間・地域振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム		
施策名	【推進】地域資源を生かした取組等の支援		

### 2 生き生き指標の進捗(達成)状況

### 3 事務事業評価

県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	地域活力創出推進事業	<b>実施目的</b> 県民局が「新晴れの国おかやま生き生きプラン」の地域別構想を踏まえ、地域の特性や資源を生かした地域産業や観光の振興などに取り組み、地域の活力創出を推進する。	<b>成果・課題</b> 各県民局が、地域の特性や資源を生かし、産業や観光の振興、地域の活性化、地域課題の解決等に向けた12の事業を実施することにより、地域活力の創出に取り組んだ。今後も持続可能な中山間地域等の形成を目指し、各県民局による主体的な取組を支援する。	3

県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	地域と暮らしの維持応援事業(集落再編支援事業を除く)	<b>実施目的</b> 地域の課題やニーズを踏まえ、市町村が地域づくり団体やNPO等の多様な主体と連携して取り組む地域活性化に向けた事業等を支援することで、自立発展的な地域づくりを促進する。	<b>成果・課題</b> グリーンスローモビリティ実施体制の整備、話し合いの場づくり、特産品開発など、3市町5事業に対して支援を行った。	2

平均	2.5
----	-----

### 4 施策達成レベル

2.5	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

### 5 施策推進による主な成果

県民局ごとに地域の実情や課題を踏まえ、特産品の開発や販路開拓、観光振興、子育て支援、若者による地域課題解決、地域運営組織の支援、鳥獣害対策などに、主体的に取り組み、地域活力創出の推進が図られた。また、グリーンスローモビリティ実施体制の整備、地域の情報発信、特産品開発・PR等、地域の課題やニーズに基づき、市町村が多様な主体と連携して行う取組を支援し、持続可能な地域づくりに一定の効果を生み出した。

## 6 今後の施策推進に向けての課題

安心して暮らし続けることができる地域づくりに向けて、県民局や市町村と連携し、引き続き、事業の目的や実効性等を考慮しながら、それぞれの地域の実情や特性に応じた取組を進めていく必要がある。

## 2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	県民生活部 県民生活交通課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム		
施策名	【推進】地域公共交通の維持・確保		

### 2 生き生き指標の進捗(達成)状況

#### 3 事務事業評価

県民生活部 県民生活交通課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	地域公共交通ネットワーク再編等促進事業	実施目的 市町村等が行う、地域に適した交通手段の導入や利便性の向上をはじめとする地域公共交通の維持及び確保に向けた取組を支援し、地域公共交通の維持・確保に努める。	成果・課題 市町村等が行う地域公共交通の維持及び確保に向けた取組を支援することで、市町村等における地域公共交通の維持確保の将来像等の検討が行われた。	4

県民生活部 県民生活交通課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	地域公共交通維持確保支援事業	実施目的 市町村等が行う、地域に適した交通手段の導入や利便性の向上をはじめとする地域公共交通の維持及び確保に向けた取組を支援し、地域公共交通の維持・確保に努める。	成果・課題 市町村等に対し、地域公共交通に関する検討調査や車両購入等に係る経費を補助することで、地域公共交通の維持及び確保に向けた取組が進んだ。	4

平均	4.0
----	-----

#### 4 施策達成レベル

4.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを 4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

#### 5 施策推進による主な成果

市町村が行う地域に適した交通手段の導入や、利便性の向上をはじめとする地域公共交通の維持及び確保に向けた取組を支援し、地域公共交通の維持・確保に努めた。

## 6 今後の施策推進に向けての課題

人口減少社会の中で、中山間地域での地域公共交通を維持・確保することは、大変困難な状況であり、今まで以上に市町村と協力して施策を推進してい必要がある。

## 2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 環境文化部 自然環境課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム
施策名	【推進】豊かな自然や優れた景観を生かした地域間交流の促進

### 2 生き生き指標の進捗(達成)状況

### 3 事務事業評価

環境文化部 自然環境課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	国立公園満喫プロジェクト推進事業	<p><b>実施目的</b> 環境省が国立公園のナショナルパーク化を目指し、「国立公園満喫プロジェクト」として、蒜山地域を含む大山隠岐国立公園を選定したことに伴い、蒜山地域の自然景観を活用し、インバウンドにも対応できる環境整備や、Webによる情報発信など人材の育成を図り、国内外の誘客促進につなげる。</p> <p><b>成果・課題</b> 大山隠岐国立公園内において、蒜山地域の自然をより楽しんでもらえるよう、園地遊歩道の再整備、案内板の整備を行った。また、蒜山の風土や歴史、WEBによる情報発信の研修を実施した。</p>	2

平均	2.0
----	-----

### 4 施策達成レベル

2.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

### 5 施策推進による主な成果

真庭市蒜山エリアにおいて、関係自治体や団体の協力を得ながら、園地遊歩道の再整備、案内板の整備を行うとともに、蒜山の風土や歴史、Webによる情報発信の研修による人材育成など、誘客の促進に向けた取組を行った。

### 6 今後の施策推進に向けての課題

新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めながら、誘客の促進に向けて、さらなる施設整備を行うとともに、研修で得られた知識やスキルの活用により、ガイドのさらなる育成を図る必要がある。



2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 農林水産部 農村振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム
施策名	【推進】頑張る地域農林水産業の応援

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
農林水産部 農村振興課	直接支払交付金	実施目的 農業の生産条件が不利な中山間地域等（5法指定地域及び知事指定の特認地域）において、農業生産活動等を通じて荒廃農地の発生を防止し、水源かん養等の多面的機能の維持増進を図る。	3
		成果・課題 県下25市町村において、1,243協定、11,546haで本対策の取組が行われ、適切な農業生産活動等を通じて、荒廃農地の発生防止や公益的な多面的機能の発揮、将来につながる地域農業の体制づくりが図られた。	

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
農林水産部 農村振興課	中山間地域“食と農村”の交流促進事業	実施目的 中山間地域において、農産物直売所と農家民宿や体験農園などの農村観光資源が連携し、地域が一体となって消費者を呼び込む取組を支援することにより、地域の新たな魅力や価値を創出し、活力ある農村づくりを促進する。	4
		成果・課題 直売所や旅行会社等を対象にしたモニターツアーの実施や、真庭市、井原市の直売所を対象にした研修会などの取組を支援するとともに、人材育成講座等を開催し、延べ111人が受講した	

平均	3.5
----	-----

4 施策達成レベル

3.5	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

<p>直接支払交付金を活用した農業生産活動等が1,243協定、11,546haで行われ、荒廃農地の発生防止や公益的な多面的機能の維持増進が図られた。</p> <p>また、地域の新しい魅力、価値を創出する人材を育成するセミナー等の開催に延べ111人が参加し、人材育成を進めるとともに、直売所や旅行会社等を対象にしたモニターツアーを実施するなど、地域の魅力向上に向けた取組を実施した。</p>
--

## 6 今後の施策推進に向けての課題

高齢化や人口減少等による担い手不足の進行に対応するため、地域ぐるみでの農業生産活動等の取組を推進し、荒廃農地の発生防止に努めるとともに、地域を牽引する人材の育成や、直売所・農家民宿等の地域資源を活用した消費者との交流を通じて、中山間地域の活性化を促進していく。

2021年度 施策評価シート(2020年度実績)

1 評価施策名	担当部課室	土木部 道路整備課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造	
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム	
施策名	【推進】道の駅の地域拠点化に向けた取組	

2 生き活き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
土木部 道路整備課	道の駅	実施目的 道の駅設置者である市町村と協力して道の駅としてふさわしい良好なサービスを提供することにより、道路利用者の利便性及び快適性の向上並びに地域の振興に寄与し、地域の拠点施設として道の駅の機能を強化する。	4
		成果・課題 2020年度は設置者である市町村と連携し、道の駅「山陽道やかげ宿」の供用を開始するとともに、「道の駅」トイレリニューアル事業などに取り組むことにより、道の駅の機能強化を図った。	

平均	4.0
----	-----

4 施策達成レベル

4.0	生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

道の駅「山陽道やかげ宿」の新設や「道の駅」トイレリニューアル事業などに取り組むことで、道路利用者の利便性及び快適性を向上させるとともに、市町村が地域拠点の形成に取り組む環境を整えた。

6 今後の施策推進に向けての課題

供用開始から20年以上を経過した道の駅が多く、施設の老朽化が進んでいることが課題となっている。